

生徒のみなさんへ

卒業生のみなさん、ご家族のみなさま、ご卒業おめでとうございます。何度かビルケコンサートに参加させていただいていますが、毎回子供たちが目を輝かせながらバイオリンに一生懸命取り組んでいるキラキラした姿を目の当たりにし、あまりの輝かしさにくらくらしながらも「私もがんばろう!」とエネルギーをもらっています。

さて、私は5歳から宏中先生のお教室でバイオリンを習いはじめました。姉が習っていたので最初は自分から行きたいといったようですが、それほど熱心な生徒ではありませんでした。そんな私がなぜ今まで続けているのか自分でも不思議ですが、やっていてよかったなと思うことがあります。

まず、友達の結婚式の披露宴でスピーチを頼まれたときに、しゃべるのはあまり得意ではないので「じゃあ、スピーチする代わりにバイオリンを弾くから」ということで許してもらえます。そのうえ、バイオリンは割と珍しいらしく、演奏はともかく結構評判がいいのです。また、「披露宴のBGMとしてカルテットで演奏をして欲しい」と頼まれることもあります。BGMは音量が大きいと歓談の邪魔になるので気を遣うのですが、披露宴に出るだけではなく、ちょっと喜んでもらえてとてもうれしい気持ちになります。

それから、バイオリンという「趣味」があることです。以前、「趣味があるっていいよね」といわれたことがあります。ひとつのことを何十年も続けているのは他人から見ればうらやましいことなんだそうです。それにバイオリンを弾くというと、「優雅だね」などといわれるのですが、ご存知のとおりホントは全然そんなことないですよ。とはいえ、好印象を持ってもらえて話の種にもなり一石二鳥です。

そして、私が一番よかったと思うのは、楽器を通じての仲間ができることです。大学時代に所属していた弦楽オーケストラの先輩とは今でも食事に行ったり演奏会に行ったりと気のおけないお付き合いをしています。また、私はご縁がありませんでしたが、同じオーケストラの中で結婚をされるケースもあります。お父様、お母様の中にもいらっしゃるのではないかと思います。さらに、音楽を通して知り合う仲間は、心から楽器や音楽を愛している人たちばかりなので、どんどん話が弾んでしまつてあつという間に仲良くなれます。

でも、これらのことは、大人になってからも続けているからこそ経験できることであつて、子供のうちに辞めてしまつていたらきっとわからなかったでしょう。今のお子さんたちは学校や塾に、習い事もたくさんあつて大変だなと思いますが、バイオリンをずっとやっているときっといいことがあると私は思うのでぜひ続けて欲しいと思います。

今になって私が後悔しているのは、あまり一生懸命練習してこなかったことです。どうせやるなら少しでも上手に弾けた方がもっと楽しくないと思いますか?練習って楽しくないし大変だけど上手に弾けるようになったらうれしいし、きっと今以上に楽しくないと思います。大人になるとやるのがたくさんあつて、バイオリンを弾く時間がどんどんなくなってしまいます。ですから時間があるときにきちんと練習することをおすすめします。

私が今まで続けてこれたのは、最初に優しい宏中先生に教えていただけたからということ、それから宏中先生・直樹先生の丁寧で辛抱強いご指導を受けられたからですが、やはり家族の協力があつたからだだと思います。私も家族にはとても感謝しています。きっと、お父様、お母様はお子さん以上に大変なのではないでしょうか。ですから生徒のみなさんにご両親への感謝を忘れずにがんばって続けてみてください。きっといいことがあると思いますよ。